

保険業をめぐるグローバル化の背景と動向

小樽商科大学 中浜 隆

1. はじめに

本報告は、本シンポジウム報告の総論的立場として、①1990年代以降における保険業のグローバル化（グローバル化）の要因（背景）、②保険会社の海外進出の動向、③国際保険資本規制の制定、の3つを取り上げる。その際、1990年代以降において保険業にどのような新しい事象が生じているのかという点（1990年代以降の特徴）を探ってみたい。

2. 1990年代以降の保険業のグローバル化の要因（背景）

(1) 国内的・域内的要因

先進国に着目した場合、主要な国内的・域内的要因には、①金融サービス分野の規制緩和・自由化、②金融・保険グループの形成・成長とそれに伴う競争激化、③人口動態の変化（少子高齢化、人口減少）とそれに伴う保険市場の成長鈍化、がある。

上記の①については、たとえば、アメリカにおける1999年の金融サービス現代化法の制定、ヨーロッパ(EU)における1992年の損害保険と生命保険の第三次指令の採択、日本における1995年の保険業法の全面改正、がある。また、②については、先進国において金融・保険グループが形成され、国内外で事業を積極的に展開していることは、1990年代以降の新しい事象である。なお、上記の③は、おもに日本に当てはまる要因である。

(2) 国際的要因

主要な国際的要因には、①東ヨーロッパ諸国における社会主義体制の崩壊とその後の民主化・市場化、②貿易・投資の自由化の推進（たとえば、1995年のWTOの設立）、③新興国（BRICSなど）における経済改革と経済成長、④保険市場の拡大（将来の予測も含む）、がある。

上記の④は、新興国の人口増加と経済成長が大きな要因である。しかし、「衣食住足りて保険」とよく言われることから、それらがすぐに保険市場の拡大に結びつくわけではない。とくに家計保険の需要（普及）は国民1人当たりGDPの水準に、また人保険の需要は社会保障制度に大きくかかわる。

3. 保険会社の海外進出の動向

保険会社の海外進出は、1990年代以前にもみられたことである。保険業の歴史を振り返ると、第一次大戦前にも当時の先進国の保険会社が他の先進国や新興国に進出した

事例を見出すことができる。

保険会社の事業を保険引受業務と資産運用業務に分けるならば、保険会社の海外事業は保険引受業務が先行し、資産運用業務（資産運用の海外拠点の設置）は比較的新しい（とくに1970年代以降の）事象である。1990年代以降の新しい事象は、先進国の保険会社（金融・保険グループ）がグループ内の企業を通じて国内外で投資銀行業務など従来の資産運用業務を超えた業務を展開していることである。

他方、保険引受業務では、1990年代以降、先進国の保険会社（金融・保険グループ）が新興国（とくにアジアの新興国）に積極的に進出している。日本の保険会社は、1990年代以前はおもに日系企業の保険を引き受けていたが、90年代以降には現地企業や国民の保険も引き受けるようになってきている。保険引受業務はグローバル性よりもドメスティック性のほうが強いならば（保険業のドメスティック性とグローバル性については、岡田報告で詳しく論じられる）、ドメスティック性から生じる新たな課題に取り組む必要がある（日本の保険会社の海外展開と課題については、野口報告と鈴木報告で詳しく論じられる）。

4. 国際保険資本規制の制定

金融・保険グループの形成・成長、新興国の保険市場の拡大、そして金融・保険グループの海外事業の展開を受けて、保険監督者国際機構（IAIS）が国際保険資本規制を策定している（この点については、木下報告で詳しく論じられる）。国際保険資本規制の制定はそれ自体、1990年代以降の新しい事象である。

Cummins and Venard（2008）は、各国の保険市場における世界的類似性（13項目）と地域的多様性（12項目）を指摘しており、「規制」は地域的多様性として取り上げている。国際保険資本規制の制定によって各国・地域の保険監督規制がどの程度標準化されるのか注目される。

5. おわりに

世界的に財・サービスが商品化され、市場が拡大するグローバル化の進展は、保険業に即していえば、保険会社（金融・保険グループ）の活動領域を世界的に拡大させる過程である。1990年代以降における①金融・保険グループの形成・成長、②新興国の経済発展と保険市場の拡大、③国際保険資本規制の制定と各国・地域の保険監督体制の整備・構築（保険監督規制の国際標準化）は、保険業の歴史において新たな段階に入ったことを示しているといえるであろう。

今後、個々の保険会社でみると海外進出と撤退は繰り返されるであろうが、保険会社全体（保険業）でみると海外業務の比重は傾向的に高まっていくであろう。